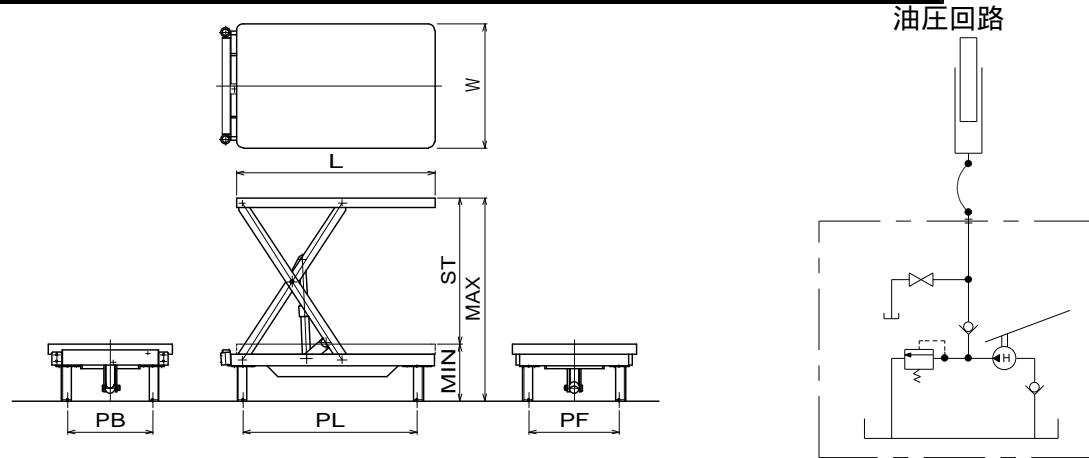


## 仕様

型式	許容荷重	テーブル寸法 W × L (mm)	ストローク ST (mm)	テーブル高 (mm) MIN ~ MAX	ポンプ 回数	アンカーホル ピッチ (mm) PB × PF × PL
HLFWA-S150	150kg	400 × 720	485	235 ~ 720	22回	313 × 313 × 622
HLFWA-S250	250kg	500 × 800	540	260 ~ 800	36回	343 × 365 × 702
HLFWA-S500	500kg	600 × 900	600	325 ~ 925	58回	450 × 471 × 835



## 品質保証書

お買い上げ日より1年以内に正常な状態で使用して故障し、弊社がその欠陥を認めた場合には無償修理致します。

お買い上げ年月日	年	月	日
型番	HLFWA-S150	HLFWA-S250	HLFWA-S500
お客様	ご住所		
販売店	お名前	様	印
	住所		
	店名		
	TEL		

## &lt;無料修理規定&gt;

- 取扱説明書に従った正常な使用状態で故障した場合には、お買い上げ販売店が無料修理致します。
- 保証期間内に故障して無料修理をお受けになる場合には、お買い上げの販売店にご依頼ください。  
なお、離島及び遠隔地への出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。
- ご贈答品等で、お買い上げ販売店に修理依頼ができない場合には、本書に記載されている本社もしくは各営業所、サービスセンターにお問い合わせください。
- 保証期間内でも次の場合には有料修理になります。  
(イ) 使用上の誤り、及び不当な修理や改造による故障、及び損傷。  
(ロ) 組立・取り付け不備による故障、及び損傷。  
(ハ) お買い上げ後の場所移動、落下等による故障、及び損傷。  
(ニ) 火災・地震・水害・落雷その他天災地変・公害による故障及び損傷。  
(ホ) 本書の提示がない場合。
- 日本国外で使用された場合、すべてに責任を負いません。

この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので保証期間経過後の修理についてはご不明な場合は、お買い上げ販売店または本書に記載の本社もしくは各営業所、サービスセンターにお問い合わせください。



## 取扱説明書

## ワークテーブルリフト

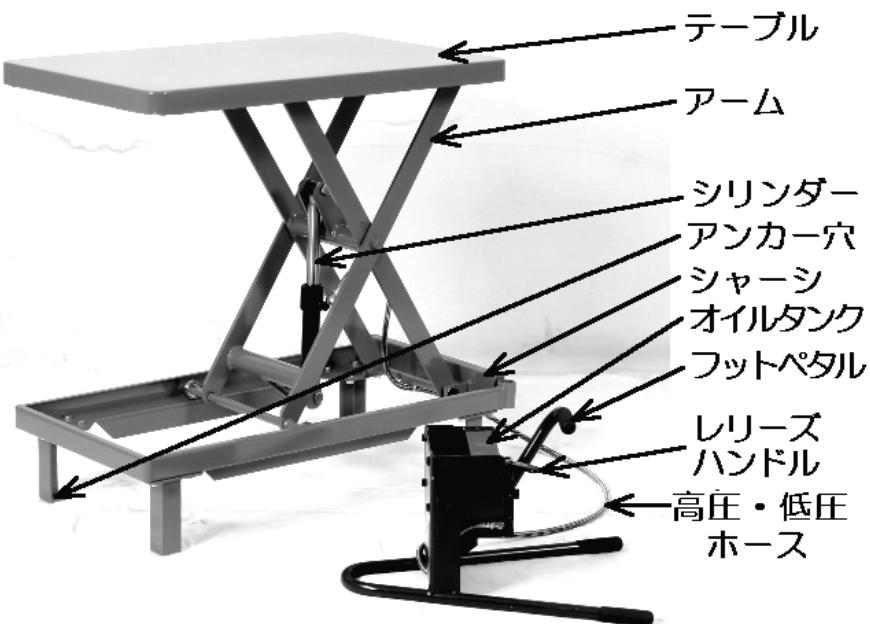
HLFWA-S150,S250,S500

この度は、ワークテーブルリフトをお買い上げ頂きましてありがとうございました。  
本機を安全に、能率よくご使用頂くために、必ずこの取扱説明書を最後までお読みください。



取扱説明書は大切に保管し、よく活用してください。  
取扱説明書は最終ユーザーに必ずお渡しください。  
取扱説明書や警告ラベルを破損・紛失した場合には、ただちに購入店に注文してください。  
取扱説明書で使用方法に不明な点や疑問点がある場合は、購入店にお問い合わせください。

## 1 各部の名称



## 2 据付

シャーシには、転倒防止用の取付穴(4-12)があいていますので、頑丈で水平な面にアンカーボルトで固定してください。  
テーブルの四隅の高さの差はテーブル長さの1%以内です。水平ではありません。  
屋内に据え付けてください。(塵埃の少ない、水、蒸気のかからない場所)  
周囲温度 0 ~ 40°C 周囲湿度 85%以下



運搬、設置、配管、配線、保守、点検、は専門知識と技能を持った人が実施してください。感電、けが、火災、装置破損のおそれがあります。  
爆発性雰囲気中では使用しないでください。

### 3 安全上の注意事項

リフターを運搬される場合は、テーブルを下限まで降ろし、シャーシ底部にロープを掛け吊り上げるか、フォークリフトでシャーシ底部をすくい、水平に運搬してください。倒さないでください。

アンカーを打つなどして、しっかりと固定してください。

許容荷重以上は載せないでください。

屋内専用です。屋外には設置しないでください。

傾斜地では使わないでください。転倒事故のおそれがあります。

子供にさわらせないでください。

積載物の移載時の許容荷重は右図の 1 / 4 は 1 / 2 で設定してください。

荷物の急降下を避けるために、レリーズハンドルはゆっくり回してください。

改造してのご使用はおやめ下さい。やむをえず、改造される場合はご相談下さい。

積み荷はテーブル面からはみ出ないように、又片荷や集中荷重にならない様

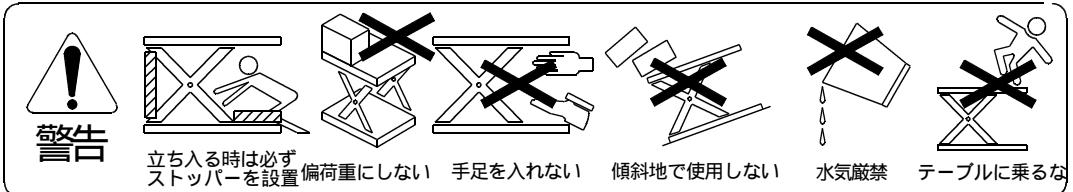
均等に荷積みしてください。( テーブル面のほぼ中央の 2 / 3 以上を覆うこと )

テーブルの四隅の高さの差はテーブル長さの 1 % 以内です。水平ではありません。

リフターの可動、昇降部分は危険です。絶対に手足を入れないでください。メンテナンス時には、挟まれないよう二重三重の安全対策を設けてください。

本機は防水仕様ではありません。水気のある雰囲気で使用しないでください。

異常を感じたら直ちにお買い求めの販売店にご連絡ください。



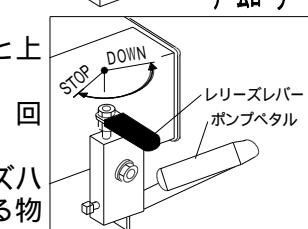
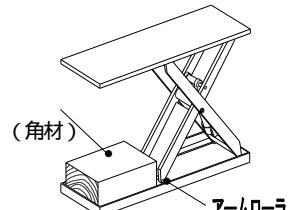
### 4 保守・点検時の下降防止安全対策

保守・点検などリフター内に入るときは、テーブル上の荷物や冶具を降ろし電源を切り、下降防止ストッパーを設置して、テーブルやアームが下降して手足を挟まないように安全対策を施してください。ストッパー等を設置しないとテーブルが下降して死亡災害のおそれがあります。

1. テーブル上の荷物や冶具を降ろし、上昇させてください。

2. シャーシのアームローラにストッパー( 角材 ) を噛まし、アームが下降しない様にしてください。

ストッパー( 角材 ) 等はお客様でご用意ください。



### 5 操作方法

ポンプのレリーズレバーを "STOP" の方向へ回し、ペタルを漕ぐと上昇します。

ポンプのレリーズレバーを "DOWN" の方向へ回すと下降します。回し加減で下降スピードの調整ができます。

緊急時にレリーズハンドルから手を離すだけでスプリングがレリーズハンドルを締めてテーブルの下降を止めます。ただし、完全に締めきる物ではありませんので、締まりきっていないときは手で締め直してください。

### 6 オイルのにじみ・自然落下

油圧式のリフターの場合、圧力のかかるポンプやシリンダーのしゅう動部に微量のオイルのにじみが生じます。パッキンの摩擦やダストの混入によってもシール効果が弱まり、自然落下やオイル漏れが発生します。微量のにじみは落下防止策をしてウエス等でふきとり、ひどいオイル漏れの場合にはシリンダーやポンプを新品に取り替えてください。規格ではテーブルの降下量は最大積載荷重を負荷して 15 分間放置した時、ストロークの 2 % 以下でなければならぬとしています。

### 7 保守点検

点検は必ず無負荷の状態にし、内部を点検するときは前記の下降防止安全対策を施してから行ってください。日常点検により万一異常が発見された場合、直ちに運転を停止し原因を調査の上、対策処理を行ってください。

#### 日常点検

本体外観上に異常はないか。

リフトの昇降動作に異常はないか。

周囲に障害物はないか。

異常音や異常発熱はないか。

#### 定期点検(一ヶ月毎)

各接続部のボルト、ナット等の破損やゆるみはないか。

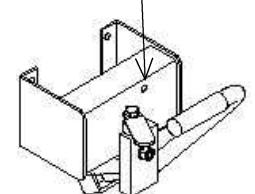
油圧作動油は不足していないか。油漏れはないか。

高圧ホースに亀裂や摩耗はないか。

溶接部の亀裂や破損はないか。

各接続部のボルト、ナット等の破損やゆるみはないか。

オイルプラグ口



#### 油圧作動油の補給

オイル補給する時はゴミが入らないよう注意し、リフターはいっぱいまで下げるから行ってください。

タービン油 ISO.VG22 をオイルプラグ口まで入れてください。

### 8 簡単な修理

ペタルを漕いでも上昇しない場合。

ポンプレリーズレバーを "DOWN" の方向へいっぱい回し、ペタルを数回早く漕いでください。( 空漕ぎする ) この操作をすると大抵の場合直ります。

ポンプを漕いでも 1 回でテーブルが上昇する量が規定より少ないと

ポンプに空気が入っていますので手前を持ち上げて傾けながらポンプを漕いでください。レリーズレバーを回しても下降しない

レリーズレバーの上下のナットをしっかりと締め込んでください。このレバーは上下のナットで固定されています。

レリーズレバーが回らない

レリーズレバーの下のナットを反時計回りにスパナ等で回してください。

#### 検査合格証

本機は下記の検査項目に合格しております。

( 1 ) 使用上有害で大きな、きず・ひずみ・ひび等のないこと。

( 2 ) 指定通りの塗装色であり、有害な塗装欠陥のないこと。

( 3 ) 溶接面に目視できる有害な溶接欠陥のないこと。

( 4 ) オイル量が足りていること。

( 5 ) エア噛みがないこと。

( 6 ) 升降動作に異常がないこと。

( 7 ) 最大積載荷重を負荷して最高位から最低位まで昇降させた後、荷重を取り除き各部の異常がないこと。

( 8 ) 最大積載質量をテーブル面に負荷し、最高高さまで上昇させて 15 分間放置した時の下降量が揚程の 2 % 以内であること。

( 9 ) 最大積載質量をテーブル面に負荷し、レリーズハンドルをストッパーが当たるまで回しても急降下しないこと。

( 10 ) 無負荷で、レリーズハンドルをストッパーが当たるまで回した際、途中で止まらず、下限まで下がること。

( 11 ) 油漏れがないこと。

( 12 ) 製造番号等ラベルが所定の位置に貼り付けられていること。